

年 頭 の ご 挨拶

農 業 工 業 会 会 長 菊 池 浦 治

あけましておめでとうございます。

こよみのうでは新しい年を迎えたことありますが、私どもは3カ月前に年度が変わることになっていて、既に昭和52年10月より53農業年度に入り、心を新たにして新年度に対応しております。

昨年度は早期には活発な荷動きがみられ、明るい兆しが期待されましたが、その後東日本を中心とした異常天候の影響をうけ、当用期に近づくにつれて不活発となり、年間を通じて出荷量は、前年に比べて微増にとどまりました。私ども会員のみの数字であります。出荷実績は昭和51年度約59万7千トンに対して52年度は約61万4千トンで、約3%の伸びだけにとどまりました。

さて本年度はと考えると、昨年末打ち出された総合食糧政策のなかで、米の減反方針が39万ヘクタールとされ、大豆、小麦、飼料用作物などへの転作が指導されることになっております。こゝ数年来、農業の国内需要は頭打ちになるだろうと言われているとき、稲作用が大きな使用分野になっているなかで、いよいよ厳しい環境におかれることは必至であります。

こうした背景を控えて、農業の安全性について業界としては既に万全の姿勢で対応してきているものでありますが、今回新たに混合剤につ

いても試験成績資料を用意せねばならなくなりました。また、年1回改訂の機会を与えられている価格についても、農業側の事情から止むを得ないということで、私どもとしては満足できない線で決定されました。

しかしながら、私ども農業製造業者は、農業のなかでの農業に課せられている使命が、食糧問題が国際的にもこれほど大きくとりあげられているとき、いよいよ重くなることゝ確信し、一層より効果的な新農薬の研究開発に邁進し、私ども企業に負わされている社会的使命を達成できるよう不断の努力を傾注いたす覚悟でございますので、皆様方の倍旧のご指導をお願いいたします。

それにしても長い年月と莫大な経費をかけて、ようやく上市できる見通しができてから、国に対して登録を申請しているものでありますが、いろいろの事情で許可されるまでにはまことに長い時間がかかっております。このことについてはかねがね関係当局に陳情し、打開の路をご検討いただいております。また一方企業側に対しても問題点についてご指摘いただいておりますが、日本経済が大きく揺れ動いておりますとき、私ども折角の研究成果が一日も早く農家のお役に立ちますよう格段のご配慮をお願いして新春のご挨拶といたします。